

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

2024年1月7日（日）

主 題：「神の愛によって生きよう」

—きよい信仰の上—

テキスト：ユダの手紙1章17-25節

### はじめに

・おはようございます。

・前回、ユダの手紙から学んだのは2ヶ月前でしたので、少し間が空きました。そこで、これまで学んだことを短く復習してみましょう。

・先ずユダという名前は、「主をほめ称えよう」という意味です。ユダがこの手紙を書いたか理由は、3節に記されています。

1:3 愛する者たち。私たちがともにあずかっている救いについて、私はあなたがたに手紙を書こうと心から願っていましたが、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。

・ユダがこの手紙を書いたのは、だいたい1世紀末から2世紀初頭と思われる。当時のローマ帝国は全盛時代に入っていました。「ローマ式平和」と言われた時代でした。政治、経済、文化、宗教等のすべてが充実していました。しかし、同時に「真の信仰」から、離れる人がいた時代でもありました。クリスチャンにとっては厳しい時代でした。

・繁栄の中で、人々は世のことに興味を持ち、自分中心で、自分の好きなように生きていました。社会が豊かになり、人々が富に固執して、その欲望を満足させようとする社会でした。そこには、各種の誘惑がありました。往々にして、性道徳も乱れていました。

・このような中、クリスチャンたちも世俗中心の風潮に流される危険性がありました。そこでユダは手紙を書き「物欲と不道徳」、この二つについて注意するよう勧めました。

・当時のローマ帝国は、現代社会の有り様によく似ていました。現代の日本のTV、雑誌、DVD等のメディアには、俗悪な内容が氾濫しています。人々の心を汚し、不義、不道徳に対して罪悪感を抱かなくさせています。

- ・多くの人々は、創造神を知りませんし、神を恐れる心也没有せん。人々はこの世をどう生きるか、どのように楽しんで上手に生きるかが、最大の関心事になっています。
- ・そこで、次の点を考えましょう。

### 大切なポイント

#### 1. 不信仰を避けなさい

1:4 それは、ある者たちが忍び込んできたからです。彼らは不敬虔な者たちで、私たちの神の恵みを放縱に変え、唯一の支配者であり私たちの主であるイエス・キリストを否定しているので、以下のようなさばきにあうと昔から記されています

- ・当時は「グノーシス主義」という異端がキリスト教会の中に入り込み、聖徒たちがその影響を受ける事態となっていました。神の恵みは曲解され、公然と罪を行う口実が作られていました。口ではイエス・キリストを認めつつも、実際はイエスを否定するものでした。
- ・ユダはその危険な教えに警告を發しました。神の恵みを否定しはいけないと、警告しました。イスラエルの歴史を振り返るならば、民は彼らの不信仰の故に信仰を失い、神の怒りにあいました。ユダはそれを忘れてはいけないと、警告しました。
- ・ユダは次のように述べました。  
1:5 あなたかがたはすべてのことをよく知っていますが、思い起こしてほしいのです。イエスは民をエジプトの地から救い出しましたが、その後、信じなかった者たちを滅ぼされました。

- ・思い起こすこと。それは私たちにとっても大切です。私たちも聖書が、主イエスが何をお語りになられたかを、思い起こすことは大切です。しかし、神のみことばを蓄えていなければ、思い出す材料がありません。当然のことながら、常日頃から神のみことばを貯えておく必要があります。
- ・神のみことばは、私たち生きる確かな基準です。私たちは不信仰を避けるために、みことばを思い出すことは大切です。

## 2. フェイク・ニュースに注意せよ

- ・当時、偽教師が教会の中に侵入していました。偽教師はキリストの福音でなく、誤った教えを吹聴し教会内を混乱させていました。ユダは彼らのことを次のように言いました。

1:12 この人たちは、あなたがたの愛餐のしみです。恐れる心もなく一緒に食事をしますが、自分を養っているだけです。彼らは、風に吹き流される雨無し雲、枯れに枯れて根こそぎにされた、実りなき秋の木、

- ・現代も存在する異端（偽教師）の教えで、怖いのは「洗脳」です。洗脳されることによって、正常な判断の識別ができなくなります。そして誤った教えを、正しいと信じ込む状態に陥ります。ですから「自分たちこそ正しい」、と主張し、他は誤っていると言います。
- ・皆さん。神の正しい教えと間違った教え（異端）を識別する方法は、どこにあると思いますか。⇒

- ① 時間をおき観察すること、
- ② 言動を通して実を観察すること、そして
- ③ 神の平安（シャローム）があるかどうか。です。

- ・日々、生ける神の愛によって救われ、神との幸いな交わりを持つ人には、正しい教えか、あるいは誤った教えかが明らかにされます。それは生ける神がお示しくださるからです。

- ・今の時代もフェイク・ニュースは蔓延しています。それは単にキリスト教会内だけではありません。社会の中のあらゆる分野にです。私たちは、そのような時代に生きています。そこでどのように生きるべきか、ヘブル人への手紙は教えてくれます。

12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

### 3. 神の愛に生きる

- ・著者ユダは混迷深める時代に、真の信仰を持つ人はどのような歩みをすべきか記しました。聖書は「終わりの時」のしるしについて語っていますが、ユダが生きた時代は正にそのような時でした。ペテロも終り時代について、語りました。

- ・こういう事態が起こることは、使徒たちはすでに予告していました。

#### 2ペテロ3章

3:3 まず第一に、心得ておきなさい。終わりの時に、<sup>あざけるもの</sup>嘲る者たちが現れて

嘲り、自分たちの欲望に従いながら、

3:4 こう言います。「彼の来臨の約束はどこにあるのか。父たちが眠りについた後も、すべてが創造のはじめからのままではないか。」

- ・そこで大切なことは、

- ① キリスト者は人生の土台を、「きよい信仰」の上に置くものです。

1:20 しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。

- ② 聖霊によって祈ることです。そして神の愛のうちに自分自身を保つことです。

1:21 神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

- ・私たちは溺れている人を見たら、あるいは助けを求める人がいたら、ロープを投げて助けてあげたいと願うでしょう。それは正しいことです。その際、まず自分の足元を確かめてから、ロープを投げるのが大切です。
- ・私たちが罪に陥っている人と接する時も、自分も一緒に罪に陥られないよう臨むべきです。それには土台であるみことばに、自分の信仰の家をしっかりと建てる必要があります。そうでなければ、自分も足を奪われてしまいます。
- ・ユダはそのような霊的戦いにおいても、神は「あなた方をつまづかないように、守ることができる」と述べました。

1:24 あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、

大きな喜びとともに栄光の御前に立たせることができる方、

そして祝祷をもって、この書簡を結びました。ユダ 1 : 2 5

1:25 私たちの救い主である唯一の神に、私たちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、支配、権威が、永遠の昔も今も、世々限りなくありますように。アーメン。

## ま と め

主 題「神の愛によって生きよう」

—きよい信仰の上—

- ・ユダが生きた時代、それは異端がキリスト教会内に入り、教会は非常に大きな試練に出会っていました。そこでユダは、聖徒は信仰にしっかりと立つように勧めました。
- ・それは子どもが横断歩道を渡る時、親がその危険を語るようでした。子どもたちが危険を悟り、安全に生きるようにと願いました。大切な3点を確認しましょう。
  1. 不信仰を避けなさい
  2. フェイク・ニュースに注意しなさい
  3. 神の愛に生きなさい

\* God bless you !